

仕事のやりがい

「ありがとう」の声が聞けることが何よりうれしいです。また、出来上がった製品に感動したり、ずっと大切に使用して下さったりしている場面に出会えると、「本当にやっていて良かった!」と思います。

この仕事を始めたのは

革の切れ端が入った福袋を買ったのが始まりです。翌日革教室のチラシが目に飛び込んできて、すぐに習い始めました。田舎で暮らしたくて、縁のあった下関への移住を決め、「革製品の魅力を味わってほしい」と思って、革工房を開きました。



かわしよくにん
革職人

仕事で大変なこと

お客さまが何を望んでいるのかをよく聞いて、しっかりとイメージします。そして、ご希望に合うデザインを提案して製作しなければいけないので、なかなか気が休まりません。趣味ですが、飼っているヤギ、ミニブタなどの動物の世話が大変です。

つち はし しょう じ
土橋 彰次 さん
京都市出身 下関市在住歴6年

移住編 仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

**楽しいことを
真面目に本気でやる!**
川棚のクスの森の近くに、動物がのんびり暮らし、ほのぼのとした空気に包まれた小さな牧場があります。
この隣の革創作工房には、財布やかばんといった革小物、はもちろん、本物のような昆虫のキーホルダーなどの雑貨が、芸術作品のように並べられていて、見ているだけでもワクワクします。
その一角で、土橋さんは手際よく一針一針縫っていき、心を込めて、革製品を作り上げています。オーダーメイドを中心に、革製品のリメイク、修理、レザークラフトの楽しさを伝える教室もしています。
願いは必ず形になる!
「人の役に立ちたい。自分が地域のためにできることは何か?」といつも思いながら仕事に没頭している土橋さんが、皆さんへ伝えたいことは、
「これから君たちは、どんな小さなことでもいいので一歩踏み出してください。すると自分すべきことの方が見えてきます。それを見つけたら、自分を信じて突き進んで行ってください。願いは必ず形になるはずだから」



牧場にも、お客さまに楽しんでいただける仕掛けをしています。



本革のたい焼きを見つけてみてください /



速く、正確に、丁寧に縫っていきます。真っすぐに縫うのが大変です。